

ヘーゲル

Hegel

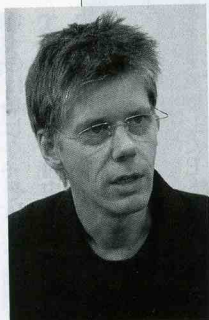
1997年にノルウェーのオスロに創設されたヘーゲル社。主宰者であり、チーフエンジニアでもあるベント・ホルター氏から、ヘーゲル独自のテクノロジーを中心に話をうかがうことができた。

編集部 ECMで有名なオスロのレインボースタジオで、ヘーゲルの機材が使われているとうかがいましたが、どういった経緯で採用されたのですか？
ホルター ECMを主宰するマンフレット・アイヒャーが個人的にヘーゲルのCDプレーヤーを使ってくれていたようなんです。そして、その音を気に入ってくれたことがきっかけで、レインボースタジオに採用されるようになりました。知り合いだったわけではなく、とても光栄なことですね。
編集部 ヘーゲルという会社名はドイツの哲学者ヘーゲルからとったようですが、その理由を教えてください。
ホルター ヘーゲルが哲学の中で前向きな姿勢を説いていることが凄く好きだったのです。二つのまったく異なる考えを一つに合せて、もっと高次の理

解に辿りつくというようなことを説いているのですが、問題が起きても前に進んで解決しようとするその姿勢に共感を受けました。それに、私が考案して特許を持つ「ヘーゲル・サウンドエンジン」と名づけたエラー補正システムも同じような思想を持つのです。

編集部 その補正システムについて説明していただけませんか？

ホルター 高速で広帯域に対応したエラー補正システムです。簡単に言ってしまうと、信号の増幅回路で歪み打ち消すためのものです。一般的に歪みを打ち消すには、入力側に逆位相の信号を戻すネガティブフィードバック(NFB)方式を使うと思いますが、ヘーゲルの場合は戻すのではなく、前へ進むのです。フィードフォワード式のキャンセリング回路と言ったらいいのでしょうか。スレッシュホールド・ディテクターというエラーを発見する回路があり、発見したエラー分だけの逆位相の信号を生成し、それを次のステップに送り込んでエラーを打ち消すのです。こうすることで入力信号はクリーンな



製品を好むのは スキャンジナビア人の特徴です

まま増幅され、ニュートラルな状態を保つことができます。ヘーゲルのアンプの音が透明感にあふれて繊細でありながら、力強いと評されるのはこの回路の採用が大きいと思っています。

編集部 採用されているのはパワーアンプとプリメインアンプですか？

ホルター そうです。それから、ヘーゲル独自の回路としてもう一つ挙げられるのが、「ロー・パワー・グリーン・テックノロジー」というもので、トランジスターに流すバイアス電流の量を下げ、技術です。トランジスターの発熱量を抑え、寿命を延ばすことができ、なおかつ電気の使用量が少なくできるのです。つまり環境に優しい。

編集部 だからグリーン(笑)。

ホルター そうです(笑)。

編集部 ヘーゲルの製品はとてもシンプルですが、それはあなたの好みを反映しているのですか？

ホルター シンプルでハイクオリティな製品を好むのはスキャンジナビア人の

特徴です。ですから、私もそういった製品が好きです。また、ノルウェーはアルミの輸出に力を入れていますので、シヤーシにアルミを使っているのはノルウェーのメーカーらしい選択なんです。

編集部 想定しているユーザーはどのような層ですか？

ホルター 特定のユーザー層は想定していません。しいてあげれば、音楽を聴くことが好きな人でしょうか。操作方法がシンプルで、シヤーシはそれほど大きくなく、そして音がいい。そういう製品を作っていけば、自ずとユーザーは増えていくと思うのです。

編集部 なるほど。最後にあなたの経歴を簡単に教えてください。

ホルター 小さな頃はオーケストラでクラリネットを吹いていました。その後ギターも弾くようになり、アンプやエフェクターを自作するようになり、エレクトロニクスを専攻しました。大学はエンジニアリング課程を専攻しています。卒業後はミキシングコンソールなどのカスタムメイドを行なうなどの経験を経て、ヘーゲルを創業しました。